



——宿泊券販売が近年減少しているが、今年の目標は。

吉川 1100億円だ。

昨年の目標も1100億円だったが、震災もあり達成できず、950億円に終わつた。先日も旅運の常務理事会で申し上げたのだが、今年は必ず達成する。

西野目 1100億円ど

う目標は3年目になる。

2010年は本当に最後まで粘りに粘つていただき、目標にわずかに足らずに終わった。その流れもあって11年はおそらく目標を達成できるだろうという予測の中スタートした。実際に1、2月も好調に推移していたのだが、3月の震災もあって、結果的には950億円となつた。非常に残念な結果ではあつたが、吉川社長はいつも「最後まで粘る」と言つて、それを実行していくださる。私はここに非常に感銘を受けている。今年は「3年目の正直」ですから(笑い)。なんとしてもお互いにがんばつて1100億円を達成して、「達成

会」をやりたい。今年は必ずいけると確信している。

——近旅運の今年の活動は。

西野目 情報連絡委員会、ウェブ委員会、インバウンド委員会、教育旅行部会などについては従来どお

れから会社との共生をどのようにしていくべきかといふことだ。

もう1つは、旅館・ホテルの評価制度だ。アンケート制度のようなもののが、KNT独自のアンケートを作ることなので、

Tは他社に比べ若干遅れてはいるが、近旅運としても積極的にかかわり、この1年でしつかり作り上げて他社に追いつき追い越すような評価制度を作りたいと話している。

情報連絡員制度は、一度ドガ整えれば良いわけではな

には、地元のお客さまを相手に商売を始めたときには、地元のお客さまを相手に商売を始めたはずだ。そこにもう1回帰つていこうと思う。そういう意味では、もう一度地元の旅運を始めたときに、しっかりと商売すべきだと

近旅運としても会社といろいろ協議をしながらこの1年間、整備に協力していく。

近旅運として、今年はしっかりと未来創造委員会の大いきな議題として扱つていく考えだ。やはり今は競争時代。KNTのクーポンが果たして整合性があるのかどうかをこの協議を通して再度確認していく。

旅館と会社がこれから将来に向かってどう進んでいくのかを考える委員会を立ち上げた。「未来創造委員会」

年は予定通り実施する。グリーブディスカッショントや東北観光博など国際的に関わる大きな取り組みも多い。LCCの国内へ

今年は、「地域誘客担当者」を団体旅行の各地域本部と4地域会社に置いて、「着」を重要視していく。

その中では近旅運の存在と「着」を重要視していく。近旅運会員の皆さんほどいたいが「地域のリーダー」。

西野目 リニューアルしようと考えている。近旅運ならではの歴史ある制度だが、さまざまな課題も出てきている。実は昨年から言つていたのにあつて、もてなしに女性の感性をいかに取り入れて

客さまに接し、お客さまを道では、昨年は道外からのお客さまが大きく減少しました。その一方で、地元のお客さまは増えてきている。

今私が言つているのは、「旅の原点に帰ろう」とい

うこと。それでの旅館・

旅館の強みだ。

西野目 旅は女性が作つ

り、日本の伝統文化。ハ

セラムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき姿というのを会社とじっくり腰を据えてさまざまな分野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん

が東北の会員の皆さんの誇

り感をはじめ、住宅エコポ

ントや東北観光博など国

の本格就航への対応もあ

る。昨年は旅行におけるパ

ラダイムシフトが起り始

めた年であり、今年はさら

に大きく動くようと思つ

しゃつたように、旅館・ホ

テルも原点を見つめ直して

いくのだろう。

西野目 ライフスタイル

も価値観も変わってきたの

で、今年は将来のあるべき

姿というのを会社とじっくり

腰を据えてさまざまな分

野から考えていく。そ

のための未来創造委員会だ。これを軸にして会社と

いろいろな将来に関わる話をしていきたい。

吉川 会社としても、近

旅運と将来の夢を語り合

たい。「これからどうしてい

く」感じた。近旅運の皆さん